

山口県病院協会 会報

2019 **4月号** No.63

- 発行日 平成31年4月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



社会福祉法人恩賜財団済生会支部 山口県済生会豊浦病院

〒759-6302

住 所 下関市豊浦町大字小串7番地3

電 話 083-774-0511

F A X 083-774-2590

U R L : <https://www.toyoura-saiseikai.jp/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4ページ
四県病院協会連絡協議会報告	5ページ
研修会報告	5～6ページ
事務長部会コーナー	7～8ページ
諸会議報告	9ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



山口県済生会豊浦病院
病院長

中司 謙二

当院は、下関市北部、豊浦町小串に位置する北浦地区唯一の総合病院です。戦前、陸軍の療養所として発足し、国立山口病院時代を経て、国立病院統廃合により平成12年済生会豊浦町立病院、市町村合併のため平成17年下関市立豊浦病院と変遷し、平成28年4月済生会病院として独立し、山口県済生会豊浦病院として現在に至ります。

広い敷地の中、施設の老朽化と長い動線のため、患者さん、職員に長くご不便をおかけしておりましたが、この度、悲願であった病院全面建て替えが実現し、昨年7月に引っ越しました。駐車場整備、外構工事が今年3月に終了し、4月にグランドオープンを迎えます。下関市、市議会、医師会、大学、地元自治会、その他多方面のご協力があって完成したものであり、心から感謝申し上げます。

当院は、響灘に面し、院内の廊下や病室からも、晴れた日にはコバルトブルーの海に浮かぶ厚島が見え、抜群の療養環境です。病床数275床、うち急性期病床(10:1) 144床、地域包括ケア病床 45床、療養病床86床からなるケアミックス型病院です。産科、小児科を含む18診療科を有し、PFM (Patient Flow Management) という名称で入退院調整を行う部署を置き、病診・病病連携に力を入れ、救急だけでなく、サブアキュート、ポストアキュート患者さんも積極的に受け入れております。敷地内に、老健施設と訪問看護ステーション、隣接して、県立総合支援学校があり、地域の医療と福祉の拠点となっています。

今後も、地域医療をささえる病院として、職員一同努力する所存です。現在の最大の悩みは、医師、看護師確保です。マンパワー不足が、働き方改革の障害になるのではと危惧しております。

〈現状〉

1) 概要

名称 社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会豊浦病院
 管理者 中司 謙二
 所在地 山口県下関市豊浦町大字小串7番地3
 TEL 083-774-0511 (代表)
 FAX 083-774-2590
 E-mail toyoura@minos.ocn.ne.jp
 URL <http://www.toyoura-saiseikai.jp/>
 許可病床数 275床
 一般病床189床 (含 地域包括ケア病床45床)
 療養病床86床
 診療科 内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、療養内科、神経内科、心療内科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科
 関連施設 下関市豊浦地域ケアセンターひびき苑

2) 沿革

昭和19年6月1日 広島陸軍第一病院小串転地療養所として発足
 昭和20年12月1日 厚生省に移管され国立山口病院となる
 昭和42年4月1日 国立療養所山口病院として許可病床数360床で発足

昭和56年4月1日 病院転換により国立山口病院開設 (診療科15科許可病床330床)
 平成12年7月1日 国立山口病院を豊浦町に経営移譲 山口県済生会豊浦町立病院開設
 診療科17科 許可病床275床
 管理・運営を「社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会」が受託
 平成17年2月13日 市町村合併に伴い名称を「下関市立豊浦病院」に改称
 平成26年10月1日 一般病床155床を186床に (内地域包括ケア病床31床)
 療養病床120床を89床に変更
 平成28年4月1日 済生会に譲渡「社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会豊浦病院」に改称
 平成30年7月1日 山口県済生会豊浦病院 新病院開院

3) 特徴

当院は下関市の北西に位置し、豊浦豊北地区の中で唯一の総合病院です。18診療科を有するケアミックス型の病院で、地域に根ざした地域完結型の病院として安全で質の高い医療の提供を目指しています。平成28年6月から病院の全面建て替えに着手、平成30年7月には先行して完成した6階建ての新病院建物に移転し、平成31年3月に駐車場整備の完了により完成しました。

協会役員コーナー

平成30年度山口県救急医療功労者知事表彰(団体)を受けて



玉木病院
病院長 玉木 英樹

昨年、病院協会より推薦を受けまして、平成30年度山口県救急医療功労者知事表彰（団体）という大変名誉ある賞を頂戴致しました。大変有り難く、身の引き締まる思いでございます。山口県において救急医療に携わる病院は数多ある中で、当院のような小さな個人病院には身に余る光栄だと思います。

後で知った話ではありますが、表彰病院の選出においては、他にも多くの病院が候補に挙がっていたとの事です。そのような中、当院の救急車の受入件数が、平成27年度の393件から平成28年度は484件、平成29年度は524件と増加し続けていることを受け、昨年6月に逝去された周南記念病院理事長の竹重元寛先生より、委員会の中で「若い人が頑張っているから」とのお言葉を頂いたことがきっかけであったと知り、胸が一杯になりました。大先輩からご配慮頂きました心温まる激励を糧に、微力ながら地域の救急医

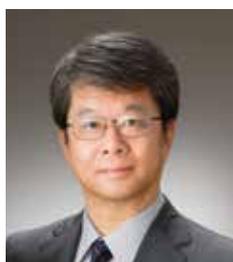
療の為に尽力して参りたいと考えます。

当院における救急医療の歴史を振り返りますと、昭和30年代末から40年代初頭の第1次交通事故多発時代より、救急車を配備し、山口県より昭和40年2月23日、山口県公示第123号をもって救急告示病院に指定され現在に至ります。当時、萩地区の救急車は萩消防署と当院の2台のみで、他医療機関への搬送にも活躍したと聞いています。また、先代院長である父、玉木英介の時代には、昭和42年9月から4つの医療機関による24時間交代制、365日体制が発足しました。

当院は、当時、萩市医師会の先達が掲げられた「萩市民の救急患者さんのたらい廻しだけは防ごう」との志を受継ぎ、萩市医師会を始めとした諸先生方や萩市内外の多くの関係者のご協力を頂きながら、萩市民の健康管理に日々勤めております。

父英介が、1999年（平成11年）5月に個人として山口県救急医療功労者知事表彰を頂いており、約20年経った今、当院がこのような栄えある賞を頂戴する事に心を打たれます。

指差し呼称について



山口県厚生農業協同組合
連合会
周東総合病院
病院長 馬場 良和

先日、医療安全の講習会に行ってきました。地域がん診療連携拠点病院の要件が変わったため、通常は看護師の参加者が多いそうですが、この日は医師と薬剤師がほとんどでした。医療安全の手技として、KYT、5S運動、指差し呼称等の普段は聞きなれない手法を学習し、大変役に立ちました。この中で、指差し呼称は明治時代から旧国鉄（現JR）で行われているもので、事故が6分の1に減少したそうです。講義を聞きながら、40年以上前の自動車学校の出来事を思い出しました。自動車学校の生徒のほとんどは大学生でしたが、その中に定年前の国鉄の運転士の方が混じっていました。この方は退職後の生活を考え、自動車免許を取りに来られたようでした。教習車の路上実習でも、国鉄での勤務中と同じく、指差し呼称を続けておられました。交差点では左よし、右よし、左よし、出発進行といった様子だったと思います。後部座席にいた私たち学生は噴き出すのをこらえるのに大変でした。指差し呼称をしている時にハンドルから片手が離れるのはいかがなものかと、自動車学校の先生からの指摘が入り、免許の試験では指差しはやめて、呼称だけになっていました。国鉄の運転士の方は、安全性が落ちるとやや不服だったようです。患者さんの前で、指差し呼称をするのはやや恥ずかしく思います。ただ、熱心に取り組んでいる病院もあるようです。どうしたものかと思案中です。

病院スタッフコーナー

地域医療の中で



医療法人
丘病院
理学療法士

主任 小倉 裕樹

趣味の旅行を楽しむ中、理学療法士の職業病でしょうか、旅先ですれ違う人や休憩中にふと外を覗いてみるとついその方々の歩き方や、訪れる街や駅などの公共の場のトイレやスロープなどの設備、環境や障害物などについて目をつけてしまいます。その時に「股関節に疾患があるのでは?」「ここに手すりがあれば利用しやすいのに」「ここはバリアフリーになっているなあ」とそんな事を思いながら旅先を歩くことも趣味の一部のようになっています。

当院は外来・入院患者様の治療に加え、現在では、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど地域医療にも取り組んでいます。地域医療において、院内では直面しないような問題に出会うことが多々あります。また、地域医療の中では、予防に関する分野でも専門職の力が必要になってきています。しかし、患者様に寄り添った治療を専門的に考え、さらに患者様のQOLをより充実させることも専門職の役目ではないかと思えます。

最後に、地域医療に携わっていく中で患者様が趣味や生きがいを全うするため、専門職として何が出来るかを常に考えていく重要性を学びました。外出機会を減らしてしまうことや在宅での環境に対して、旅先で感じた思いを反映させながら、地域医療に取り組んでいきたいと思えます。そのためには、より広い視野を持つことが今後の専門職に求められるスキルであると考えます。

寄り添った支援を



医療法人和同会
宇部リハビリテーション病院
社会福祉士

神寶 晴香

当院は232床の慢性期病院で、医療療養病棟と回復期リハビリテーション病棟があります。私は現在回復期リハビリテーション病棟を担当しています。

当病棟へ入院される患者さんは、急性期病院から在宅へ向けてADLの向上を目指したりリハビリテーションを目的とされています。入院時に話を伺うと「初めての経験で、何をどうしたらよいか分からない。」「何が分からないかも分からない。」など、自分自身の現状が受け入れられず、今後の生活や人生について不安を感じておられる方が多くいらっしゃいます。

突然の病気や怪我で障害を負い介護が必要な状況になると、患者さんのみならずご家族の生活が一変することが多く、ご家族の支援も必要となります。今後どんな生活を望まれているのか、患者さん・ご家族の話に耳を傾け、一緒に考えることを大切にしています。

その上で、様々な社会資源の活用を推進し、地域の関係機関と連携を図っています。

専門職として、生活全体をみる視点を持ち、多職種協働のチーム医療に活かしていくことが必要と考えます。

当院の基本理念である「障害を持ちながらも、人間らしい生活が送れるよう支援する」を心掛け、患者さん・ご家族と積極的に関わり信頼関係を構築し、言葉に現れない不安や思いを汲み取り、その人に寄り添える支援を行っていきたく思います。

四県病院協会連絡協議会報告

第24回 四県病院協会連絡協議会

平成31年1月25日（金）、福岡市のANAクラウンプラザホテル福岡において、岡山・広島・山口・福岡四県の第24回四県病院協会連絡協議会が開催された。

当日は、山口県病院協会より木下会長ほか2名が出席し、他県からの役員21名を合わせて、総勢24名が一堂に会した。

最初に各県病院協会の事業実施状況について説明があり、続いて各県が提出した議題等について意見交換が行われた。

各県病院協会が提出し意見交換された議題は次のとおり。



協議会風景

- | | |
|---|-----------------|
| 1) 各県病院協会の事業実施状況について | (各県資料交換・特記事項説明) |
| 2) 岡山豪雨災害への対応について | (岡山県提案) |
| 3) 地域医療構想における公的病院と民間病院との役割（機能）分担について | (広島県提案) |
| 4) 医師会立看護学校の運営状況について | (山口県提案) |
| 5) 感染症災害と病院の事業継続計画（BCP）
～1種感染症センター（エボラ出血熱患者）の開設と対応経験を踏まえて～ | (福岡県提案) |
| 6) その他 | |

研修会報告

平成30年度 病院医療事務担当職員研修会

平成30年12月19日（水）山口県総合保健会館第1研修室において、医療事務担当職員研修会が開催され、74名の参加があった。

テーマと講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「未収金を発生させない仕組みづくりについて」

講師 株式会社NSコンサルタンツ

代表取締役 仁科 利文 氏



仁科 利文氏

講師の仁科氏は、医療・企業経営の実務に携わった経験から、未収金が発生する背景をふまえて、未収金管理のルール作りや、入院医療費を支払いやすくする体制作りについて講演された。病院全体で未収金発生を防ぎ、発生した場合でも対応していけるよう、多くの実践的な対策を紹介された。

未収金問題に直面する参加者からは具体的な質問があがり、有意義な研修会となった。



研修会風景

研修会報告

平成30年度 病院看護部長研修会

平成31年1月29日（火）ホテルニュータナカにおいて、昨年度より始まり2回目となる病院看護部長研修会が開催され、55名の参加があった。

テーマと講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「これからの時代に求められる看護管理者の力」

講師 医療法人社団永生会 みなみ野病院

副院長・看護部長 安藝 佐香江 氏



安藝 佐香江氏

講師の安藝氏は、看護管理者に求められるコンセプチュアル・スキルを中心に、実際の取組例を交えて講演された。

認識した問題を、解決に向けてどのように課題化していくか、任せるということはどういうことか、研修は受講者の意見や経験も聞き出しながらいわれ、リーダーのマネジメントについて深く学ぶ機会となった。



研修会風景

～病院看護部長研修会に参加して～



医療法人和同会
宇部リハビリテーション病院

看護部長 西島 陽子

「これからの時代に求められる看護管理者の力」という演題で安藝佐香江先生の講演を拝聴した。先生は医療法人社団永生会の平成30年4月開院のみなみ野病院の副院長・看護部長であるが、今の立場になるまでのご自身の管理者としての歩みを話された。快活でポジティブな思考で困難を困難と思わせないお人柄で、パワフルで圧倒される研修であった。

今の医療現場では、いろいろなことが起き目まぐるしく変化しているため、看護管理者は大変であると話された。看護管理者に求められる能力として、何が必要か？ 問題・課題をどうするのか考え、現状の中で何が起きているのかをとらえる力、感性を持つことが必要と言われた。問題意識を持つこと、問題としてとらえ、問題を問題と気づくことが必要である。問題の発見の中に、これから起きる問題に気づくことや、スパイラルのように終わりなくPDCAサイクルを回し続けることは、看護過程の展開と同じと説明された。継続するにあたり様々な理論の紹介や、現役の看護部長さんの取り組みも紹介していただいた。問題の捉え方、解決のための情報・データの使い方、どこに視点を置くかなど自身の経験をもとに細部にわたりご教授いただいた。納得できることを聞くことができ、思うこと感じることは同じであり、頑張れとエールを送られたように思った。

看護部長として、3現主義の「現場」に出向いて「現物」に直接触れ、「現実」をとらえることができ、強く、楽しく、しなやかでありたいと思った。今後も院長・事務長とトライアングルでコミュニケーションがとれる関係を保ち、組織を活性化する役割を担っていきたいと思う。

事務長部会コーナー

平成30年度 山口県病院協会事務長部会 第2回研修会報告

平成31年2月27日（水）、山口グランドホテルにおいて平成30年度山口県病院協会事務長部会第2回研修会が開催され、109名の参加があった。また、研修会後の意見交換会にも48名が出席し、病院間での活発な交流が行われた。

テーマと講師は以下のとおり。

【制度説明】

「障害者雇用制度について」

山口労働局職業対策課

地方障害者雇用担当官 須藤 加津路 氏

【研修会】

テーマ 「病床機能の再評価が始まった、

診療報酬改定と地域医療構想」

～打撃を受ける病院群は地域で大きく異なります？～

講 師 石井公認会計士事務所

公認会計士 石井 孝宜 氏



石井 孝宜氏



研修会風景

石井氏はビッグデータを読み解きながら、今後ますます厳しさを増す医療情勢のなか、どのようにして地域ごとの特性や人口推計をヒントに病院運営を考えていくべきか、講演された。

山口県病院協会事務長部会 各支部会議報告

【山口・防府支部】

開催日 平成31年2月19日（火）

場 所 山口県立総合医療センター

研修会 ・講 義

「県央デルタネット（山口・防府圏域地域医療介護連携情報活用システム）の運用について」

講 師 山口県立総合医療センター

企画調整室長 中村 敦 氏

総 会 ・役員紹介

・平成30年度事業報告

・平成31年度事業計画

・情報交換



山口・防府支部

事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会 各支部会議報告

【下関支部】

開催日 平成31年2月19日（火）
場 所 下関看護リハビリテーション学校
意見交換 各病院の近況および懸案事項について



下関支部

【宇部・山陽小野田・美祢支部】

開催日 平成31年3月6日（水）
場 所 社会医療法人 尾中病院
議 題 施設基準における厚生局適時調査の情報交換



宇部・山陽小野田・美祢支部

【長門・萩支部】

開催日 平成31年3月22日（金）
場 所 医療法人医誠会 都志見病院
議 題 情報交換ほか



長門・萩支部

【岩国・柳井支部】

開催日 平成31年3月22日（金）
場 所 岩国国際観光ホテル
議 題 ・働き方改革への対応について
・職員確保について
・禁煙対策



岩国・柳井支部

【周南支部】

開催日 平成31年3月25日（月）
場 所 （新）光総合病院
内 容 （新）光総合病院の施設見学



周南支部



諸会議報告

平成30年度 第1回総務委員会

日時 平成31年1月18日（金）15：30～16：30

開催場所 山口グランドホテル

【協議事項】

1. 平成31年度県選奨受賞候補者の選定について
2. 平成31年度県知事表彰（看護職員）推薦について
3. 平成31年度県知事表彰（救急医療）候補者選定について
4. 平成31年度病院優良職員の表彰（山口県病院協会会長表彰）及び記念品について
5. 平成31年度山口県病院協会事業計画(案)について

平成30年度 第5回理事会

日時 平成31年1月18日（金）16：30～

開催場所 山口グランドホテル

【承認事項】

1. 平成31年度定時総会特別講演について
2. 平成31年度夏季医療経営講習会について
3. 平成30年度山口県病院協会収支予算の執行状況について

【報告事項】

1. 第14回医療関係団体新年互礼会について
2. 第24回四県病院協会連絡協議会について
3. 県医師会役員との懇談会の開催について
4. 山口銀行との金融懇談会の開催について
5. 冬季医療経営講習会について
6. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県訪問看護推進協議会委員
常任理事 玉木 英樹（再任）
7. 県各種委員会等の結果報告について
 - 水田副会長
 - ・山口県医療費適正化推進協議会（12月17日）
神徳常任理事
 - ・山口県在宅医療推進協議会（12月13日）
高橋常任理事
 - ・山口県高齢者保健福祉推進会議（11月8日）
玉木常任理事
 - ・山口県看護職員確保対策協議会（12月27日）

平成30年度 第6回理事会

日時 平成31年3月15日（金）15：30～

開催場所 新山口ターミナルホテル

【議事次第】

1. 一般社団法人山口県病院協会平成31年度事業計画並びに収支予算書の設定について
2. 一般社団法人山口県病院協会 選挙告示について
3. 選挙管理委員長の選任について

【承認事項】

1. 平成30年度病院協会決算予測について

【協議事項】

1. 病院病床数の判定について

【報告事項】

1. 病院初級職員研修会開催について
2. 夏季医療経営講習会について
3. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医療安全推進協議会委員
理事 名西 史夫（再任）
 - ・山口県肝炎対策協議会
理事 村上 不二夫（再任）
4. 県各種委員会等の結果報告について
 - 木下会長
 - ・山口県医療対策協議会（2月18日）
三浦副会長
 - ・山口県救急業務高度化推進協議会・幹事会合同会議（2月21日）
名西理事
 - ・山口県がん対策協議会がん登録部会（2月6日）
村上理事
 - ・山口県肝炎対策協議会（3月7日）

平成30年度 第4回情報管理委員会

日時 平成31年3月19日（火）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 4月号の発行について
2. 7月号の発行準備について
3. その他

お知らせコーナー

山口県医師会との懇談会

平成31年3月5日（火）、山口市湯田温泉「割烹 鄙の館」において、山口県医師会との懇談会が開催されました。山口県医師会からは河村会長ほか4名が出席、山口県病院協会からは木下会長ほか4名が出席し、県内の医療環境等について意見交換を行いました。

山口銀行との金融懇談会

平成31年3月7日（木）、山口市湯田温泉「松田屋ホテル」において、山口銀行との金融懇談会が開催されました。山口銀行から神田頭取ほか4名が出席、山口県病院協会及び医療関係4団体（日本病院会山口県支部、全日本病院協会山口県支部、山口県医療法人協会、日本精神科病院協会山口県支部）から代表役員と事務局長の計5名が出席して、県内の経済金融情勢・医療環境等について意見交換を行いました。

正・副会長、顧問会議

平成31年3月13日（水）、山口市湯田温泉「古稀庵」において、定例の山口県病院協会正・副会長、顧問会議が開催されました。木下会長、三浦副会長、水田副会長、江里顧問、小田顧問と事務局長の計6名が出席し、来年度の事業計画などについて協議を行いました。

会員等の異動

病院名の変更

・医療法人社団豊関会 豊関会記念病院 （変更前 医療法人社団豊関会 山崎病院）

～事務局からのお願い～

病院の住所や理事長・病院長先生並びに事務長、診療科目・病床数などに変更があった場合は、当協会事務局までお知らせください。

なお、変更届の様式は協会ホームページ（<http://www.yha.or.jp>）より印刷することができます。

病院協会の主な行事予定

- 5月14日 第1回理事会 （会場：新山口ターミナルホテル）
- 5月24日 山口県病院協会定時総会 （会場：山口グランドホテル）
- 6月中旬 第1回情報管理委員会 （会場：未定）
- 6月24日 初級職員研修会 （会場：山口県総合保健会館）
- 6～7月 医療懇話会 （会場：未定）
- 6～7月 事務長部会総会及び第1回研修会 （会場：未定）

編集後記

4月号がお手元に届く頃には、入職したばかりの皆さんが元気に社会人としてのスタートを切られていることと思います。5月には新元号のもと、新しい時代が始まります。連続した時の流れが突然速くなるわけではありませんが、今すでに始まっている社会の様々な変化が、改元とともに加速しそうな気がします。◆進化論で有名な19世紀の科学者 ダーウィンは、「生き残る種は最も強いものでも、最も賢いものでもない。変化に最もうまく適応した種だ。」と述べています。病院も、医療を取り巻く社会の変化に上手に適応し、進化していく必要があります。◆しかし、医療現場にはどうしても変えられない、変えてはいけないと感じるものが少なからずあることも事実です。変えられるものから少しずつ、そして、職員の医療人としてのやりがいを失うことがないように、変えていこうと考えています。（名西 史夫）